

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：34301
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：24720027
研究課題名(和文)バガヴァティー・アーラーダナーの新校訂本作成と全訳によるジャイナ教の断食死研究

研究課題名(英文)A Study of Fasting-unto-death in Jainism: Focusing on the new edition and translation of the Bhagavati Aradhana

研究代表者
河崎 豊 (Kawasaki, Yutaka)
大谷大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：70362639
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：この研究において研究代表者は以下の研究を行なった： ジャイナ教における最古の断食死マニュアルのひとつであるシヴァーリア作『バガヴァティー・アーラーダナー』(1-2世紀)全編にわたる学術的な翻訳を世界に先駆けて作成した。本文献の全詩節に亘り、他のジャイナ教文献との間の平行表現一覧を作成した。本文献が説く不妄語、不淫、不偷盗の概念について他のジャイナ教文献との比較研究を行なった。批判的校訂本の作成のためにヨーロッパおよびインドでの現存写本の状況を調査した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I have accomplished the following studies: (1) I made an annotated translation of Shivarya's Bhagavati Aradhana (1st-2nd century AD), which is one of the oldest manuals on fasting unto death in Jainism, for the first time. (2) I made a comparative table of the parallel passages between all the verses of the Bhagavati Aradhana and other Jaina texts. (3) I made comparative researches on the concept of vows on truth, nonstealing, and celibacy taught by the Bhagavati Aradhana and other Jaina texts. (4) For making the critical edition, I searched about the extant original manuscripts of the Bhagavati Aradhana kept in Europe and India.

研究分野：人文学

キーワード：印度哲学 仏教学 宗教学 死生学

1. 研究開始当初の背景

ジャイナ教徒が人生の最終段階で断食死を理想の選択肢のひとつとすることは、現代まで続く大きな特徴である。このような最期を断食死で終えることを理想とする死生観は、宗教学・文化史的・死生学の視点などから見ても注目されるものであり、多角的な考察が要求される。しかしながら、これまでジャイナ教における断食死に関する研究の進展度は文献学あるいは文化人類学いずれの見地に立っても、極めて低調であった。文献学的な側面而言えば、ジャイナ教徒はその歴史を通じ、断食死の次第を規定する多くのマニュアル的文献を作成してきた。そういった各種一次文献の利用は、断食死研究において必要不可欠である。しかし、それらの殆どは批判的校訂版が存在せず、現代語訳も利用できない。特に、シヴァーリア作『バガヴァティー・アーラーダナー』は断食死研究において最重要の資料であるにも関わらず、殆ど等閑視されてきた。

『バガヴァティー・アーラーダナー』は現存する断食死マニュアル中最古にして最大の分量を誇る空衣派代用聖典のひとつである。当該文献は、単に断食死の実践手順のみならず、断食死を遂行する修行者が予め遵守すべき各種宗教規定や認識すべき思想、瞑想実践方法、また断食死後の死体処理や当時の俗信に関する豊富な情報を含み、さながらジャイナ教に関する百科事典の如き様相を呈している。従って、本文献は単にジャイナ教における断食死理解に重要なだけでなく、文化史的見地、更には比較文化の点からも、多くの重要な情報を提供する。更に、本文献の記述言語は言語学的に未だ不明点の多い所謂「ジャイナ・シューラセーナ語」であり、同言語の言語学的解明という点でも本文献は第一級の資料を提供する。

しかし、当該文献については、Karl Oetjens が 1976 年にハンブルク大学に提出した未刊の博士論文において、部分的な批判的校訂本とドイツ語訳を提示した以外、全編にわたる批判的校訂版および現代の学問的水準に合った現代語訳すら存在しない。そしてそれに呼応する形で個別の内容や思想を扱う研究も、数えるしか存在しなかった。

この現状に対し、本研究代表者は現在入手可能な 2 つの校訂本に基づいて再校訂・読解を行ない、主として内容分析の視点から研究を發表し、本文献の重要性を指摘してきた。即ち、(1) 身体や世界を厭い放棄するために実践する「12 の観想」と呼ばれる瞑想法の分析（「anupreksā における生死 — Bhagavati Ārādhana を中心に —」『日本仏教学会年報』75 号、2009 年）、(2) 身体を不浄と見る修行と解剖学的知見の記述の分析（「Anatomy in the Bhagavati Ārādhana」、『印度学仏教学研究』

59 卷、2011 年）、(3) 信仰・知識・実践という三項目相互の位置づけ（「ジャイナ教の三宝に関する若干の考察」『中央学術研究所紀要』40 号、2011 年）である。以上の研究を進めていく中で、改めて『バガヴァティー・アーラーダナー』の重要性を認識したことにより、全編の批判的校訂と翻訳とを目指すことを中心とする、包括的な研究が必要であるという認識に至った。

2. 研究の目的

本研究は以下の諸事項を目的とする：

(1) 『バガヴァティー・アーラーダナー』全編にわたる批判的校訂本の作成と翻訳に向け、当該文献の現存する写本状況を調査し、実際に写本を収集すること。

(2) 『バガヴァティー・アーラーダナー』と他のジャイナ教文献との関係性を解明し、また当該文献における不確実な読みを確定することに役立てるため、他のジャイナ教聖典・注釈文献との間の並行・類似箇所一覧を作成すること。

(3) 校訂・翻訳の過程で明らかとなる内容上の諸問題について個別に研究を進めること。

(4) 以上の作業を踏まえ、これまでに存在する 2 つの校訂本と収集した各種写本を校合し、更に本研究による訂正案を勘案して批判的な本文校訂作業を実施し、同時に全編にわたる翻訳を作成すること。

3. 研究の方法

以下のような方法を用いて研究を進める：

(1) 先述した Karl Oetjens が用いた 2 写本が現在ストラスブール大学に所蔵されていることが判明している他は、当該文献の現存写本に関する情報は明らかではない。従って、ヨーロッパおよびインドの諸大学あるいは専門機関（寺院なども含む）が作成した写本カタログを入手し、所在の有無を確認することが前提作業となる。研究年限を鑑みると、これまで膨大な数が出版されている写本カタログに、闇雲にあたることは非現実的である。基本的にジャイナ教に特化した写本カタログを調査対象とする。ヨーロッパではストラスブール写本のほか、大英図書館を中心とするイギリスの各機関が所蔵するジャイナ教写本カタログを対象とする。インドについては、空衣派及び白衣派がそれぞれ作成したカタログ、またジャイナ教が母体となった研究機関が所蔵する写本の状況を対象とする。以上の予備的な作業を踏まえて、実際に現地へ赴き、当該文献の写本状況について専門家

と討議の機会を設ける。

(2) 当該文献と他のジャイナ文献との間の平行・類似詩節の調査については、これも研究年限を鑑み対象を白衣派聖典及び韻文註釈文献に絞る。研究代表者はこれまでの研究の過程で白衣派聖典の韻文部分・韻文註釈文献の殆どを既にコンピュータ可読化しており、平行・類似箇所抽出は比較的容易である。それらの電子データを十分に活用し、かつ未入力 of 若干の文献については年限内に入力するか、これまでに出版されている各種の語彙・詩節索引を活用することで包括的に用例を抽出し、対応一覧表を作成する。

(3) 以上の作業と並行して、原典の再校訂と翻訳作業を進める。その際に判明する各種の内容上の諸問題については、重要度が高いと思われるものから別途成果としてまとめ、発表する。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

① 『バガヴァティー・アーラーダナー』は単なる断食死マニュアルの枠を超えたジャイナ教百科全書の如き内容を有する。第33章は「連続的指導 (アヌサッティ)」と呼ばれるが、これは断食死の直前に修行者の耳元で師僧らがジャイナ教の主要教義を連続的に囁き続け、いわば「おさらい」させることを趣旨とする。その中には修行者の宗教生活の根幹をなす5つの禁戒 (ヴラタ) に関する非常に詳しい記述が含まれる。この情報はジャイナ教戒律研究の点から見ても極めて重要であり、その内容をいち早く学界に提供することが必要と判断して、内容面の検討では主にこの禁戒に関わる箇所を検討した。

[1] 817 詩節以降では「正しくない言葉」の一覧が提示される。「正しくない言葉」は、『バガヴァティー・アーラーダナー』以降に成立したと考えられるジャイナ教文献で、派を問わずしばしば議論されるが、研究代表者は『バガヴァティー・アーラーダナー』以降に著された複数のジャイナ教文献に見られる「正しくない言葉」のリストを『バガヴァティー・アーラーダナー』のそれと比較した上で、『バガヴァティー・アーラーダナー』は真実・虚偽の概念を会話のマナーと捉えた上で「正しくない言葉」の一覧を編成していること、また後代の文献ではこの一覧を完全に踏襲しているものが存在しないことを指摘した (雑誌論文⑦)。

[2] 873-874 詩節では「十種の性的放縦」が列挙される。この項目を、白衣派聖典に見られる類似する項目の内容と比較検討し、「10種類の非性的禁欲」の祖形的法数を白衣派聖典に求めることは不可能であること、シヴァーリアは当時彼が知り得た聖典・注釈に散在す

る性的禁欲に関する記述を収集し、独自の法数項目にまとめ上げた可能性が強いことを指摘した (雑誌論文⑥)。

[3] 色欲に苛まれる者が感じる、死に至る十段階の衝撃という概念が 886 詩節以降に説かれる。この類似概念が他のジャイナ教文献のみならずインド性愛文献や修辞論書にも出現することを指摘した上で比較し、ジャイナ教文献では7世紀頃の『ブリハット・カルパ・バーシャ』と完全に一致すること、またインド性愛文献や修辞論書から『バガヴァティー・アーラーダナー』が影響を受けた可能性は考え難いことなどを指摘した (雑誌論文③)。

[4] 1117 詩節には「palamba という経」という表現が現れるが、palamba をテーマにした箇所が白衣派聖典『ブリハット・カルパ』1.1-5であることを指摘した上で、シヴァーリアが『ブリハット・カルパ』を参照していた可能性があること、換言すればシヴァーリアの知的源泉を現存白衣派聖典の中に探り得る可能性があることを指摘した (雑誌論文①)。

[5] 『バガヴァティー・アーラーダナー』全詩節にわたり、他のジャイナ教文献との平行・類似詩節／表現の一覧を作成した。これは 2015 年秋に出版予定の『ジャイナ教研究』21号に掲載される (雑誌論文②)。

[6] 不偷盗を説く箇所の検討に際し、比較のために白衣派において偷盗がどのように定義されてきたのかを、アガスティヤシンハ・ウマースヴァーティ・シッダセーナという三名の著作を手掛かりに検討した (雑誌論文⑤)。また同じく白衣派のハリバドラ作『ダルマサングラハニ』において偷盗を正当化する議論があることを指摘した上で、その正当化の根拠とハリバドラによる反論とを検討した (雑誌論文④)。

② 2012年度と2013年度は週一回のペースで、2014年度はほぼ月に一度のペースで定期的に『バガヴァティー・アーラーダナー』及び関連文献の講読会を開催し、研究代表者が提示した翻訳及び原文訂正案について意見を求め、相互の知見を深めた。これにより、本研究計画の開始時点で準備をしておいた全編にわたる試訳と原文訂正案に多くの訂正を施すことができ、翻訳と現時点で判明している現行校訂本の原文訂正案については公表が可能な状態となった。

③ 『バガヴァティー・アーラーダナー』現存写本について、Karl Oetjens が使用したストラスブール大学所蔵の2写本については、2013年11月に大谷大学でパリ第三大学教授 Nalini Balbir 博士と協議を行ない、同博士の仲介により、2014年3月に入手した。インドでの写本状況については、基本的にジャイナ教が直接関与する機関の写本目録を収集した。白衣派系では、期間内では『バガヴァティー・アーラーダナー』の写本を所蔵する機

関をカタログ上から見出すことはできなかつた。2013年12月には実際に白衣派系の研究機関であるL.D.Institute of Indologyと、僧院に付設されたPatanの写本図書館を訪れ、現地の研究者および僧侶と直接この問題について討議したが、進展はなかつた。次に空衣派ジャイナ教については、そもそも空衣派ジャイナ教徒が写本カタログの作成に積極的ではなく、研究年限において空衣派の寺院等に特化した写本カタログを見出すことはできなかつた。2014年12月にカルナータカ地方を調査し、南インドの空衣派ジャイナ教研究に関する権威であるHampa Nagarajaiah博士とこの問題について討議し、またシュラバナベールゴーラにある研究所でも専門家と討議を行なったが、充実したジャイナ教写本カタログの存在そのものについて情報を得ることができなかつた。

(2) 国内外における位置づけとインパクト

本研究は、これまで部分的にしか批判校訂が行なわれてこず、また全編にわたる正確な翻訳も存在しない『バガヴァティー・アーラーダナー』の、世界にさきがけた校訂本と全訳の作成のために総合的な研究をもくろんだものであった。今回の研究は国内外において『バガヴァティー・アーラーダナー』を本格的に研究の俎上に乗せたものとして、先駆的な意味を持つ。と同時に、現行校訂本の原文訂正一覧や平行・類似詩節／表現の一覧は、停滞していた『バガヴァティー・アーラーダナー』の研究を進展させることに繋がり、ジャイナ教における断食死文化の解明がより一層進むことが期待できよう。更に、南アジア地域の文化学、また宗教学、文化人類学といった関連諸分野への情報の提供、更には死生学や生命倫理学など、人間の死と生に関わる現代的な課題を検討する分野にも、新たな視点を提供する波及的効果が期待されるであろう。

(3) 今後の展望

研究期間の3年間で任期付職への就任と退職の時期とに重なったため、当初予定していた研究成果の発表及び出版準備については必ずしも計画通り進行することができなかつた。また、先に述べた通り空衣派ジャイナ教徒が写本カタログの作成に(少なくとも今のところは)消極的であるという事実は想定範囲外であり、本研究を計画するにあたり研究代表者が事前に把握しておくべきことであった。空衣派ジャイナ教諸寺院が所蔵する写本の全容を解明するには、別に中～長期の研究を計画するべきであることも明らかとなった。

しかしながら『バガヴァティー・アーラーダナー』全編の翻訳は完成しており、また現時点でのテキスト訂正案について言えばストラスブル写本と照合した暫定的な一覧を公表することが可能である。これまでの諸

成果と合わせ日本語・英語それぞれのヴァージョンで早急に発表することを目指したい。全編の英語訳については専門的知識を持つ外国人による訂正を依頼する予定である。また成果の迅速な公表のために、researchmapの資料公開機能を活用するなどして、インターネットの利用を積極的に行なっていく所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

① 河崎豊、Bhagavatī Ārādhana と白衣派文献、筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報、査読無、26号、2015年発行予定(印刷中)

② 河崎豊、Parallel Passages of the Bhagavatī Ārādhana、ジャイナ教研究、査読有、21号、2015年発行予定(印刷中)

③ 河崎豊、Bhagavatī Ārādhana が記す daśa kāmavasthāḥ、待兼山論叢(哲学篇)、査読無、48巻、2014年、65-80頁

④ 河崎豊、Haribhadra の偷盗批判、印度学仏教学研究、査読有、63巻、2014年、319-314頁

⑤ 河崎豊、Interpretations of adattādāna in Jainism、印度学仏教学研究、査読有、62巻、2014年、1113-1118頁

⑥ 河崎豊、Bhagavatī Ārādhana 873-874、中央学術研究所紀要、査読有、42号、2013年、58-72頁

⑦ 河崎豊、Bhagavatī Ārādhana における「真実」と「虚偽」、筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報、査読無、24号、2013年、29-43頁

[学会発表] (計4件)

① 河崎豊、Interpretations of adattādāna in Jainism、Seminar on Chandragiri Inscriptions and Tradition of Prakrit Literature (招待講演)、2014年12月25日、Shravanabelagora (India)

② 河崎豊、Bhagavatī Ārādhana と白衣派文献、ジャイナ教研究会第29回研究会、2014年10月25日、大谷大学(京都府京都市)

③ 河崎豊、ジャイナ教文献に見られる偷盗擁護論、日本印度学仏教学会第65回学術大会、2014年8月30日、武蔵野大学(東京都江東区)

④ 河崎豊、ジャイナ教における *adattādāna* の定義をめぐる議論、日本印度学仏教学会第 64 回学術大会、2013 年 8 月 31 日、島根県民会館（島根県松江市）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河崎 豊 (KAWASAKI Yutaka)
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：70362639